

学科 こどもの生活学科	氏名 小倉 弘之				
<p>家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。</p>					
1 教育の責任					
<p>私は家政学部こどもの生活学科の教員として2022年4月に着任した。外国語教育や教職関係科目(小学校)を中心に担当している。2025年度はオムニバス科目を含めて合計10科目担当した。科目の内訳は、主に学部共通科目の他、小学校教諭免許取得に関わる科目、及び卒業必修科目である。1年生共通科目については、高等学校から大学教育への円滑な繋がりを担う役割が求められ、また教職及び必修科目は、将来の教育・保育職の基礎的な資質・能力を形成する土台に位置づくものである。(シラバス:添付資料1)その他)就職指導、学生指導、オープンキャンパス模擬授業、資格試験講座、等</p>	科目名	学科	開講期	受講者数	備考
	英語	こどもの生活	1年前期	37	学部共通科目(選択)
	外国語(英語)教育法	こどもの生活	2年前期	37	教職小学校領域必修科目
	教育実習指導(小)	こどもの生活	3年前期	16	教職小学校領域必修科目
	教育実習(小)	こどもの生活	3年後期	16	教職小学校領域必修科目
	教職実践演習(小)	こどもの生活	4年後期	6	教職小学校領域必修科目
	基礎演習C	こどもの生活	2年前期	37	卒業必修科目
	卒業研究	こどもの生活	4年通年	4	卒業必修科目
他3科目					
2 教育の理念と目的					
<p>本学科の使命は、将来、教育・保育にかかわる職を志す学生に対し、準備教育としての専門職育成の指導を行い、教育や保育に対しての望ましい保育・教育観や認識を培うとともに、現場において対応できる実践的な指導力を育成していくことにある。昨今の教育を取り巻く変化(採用試験の受験者減少、教員免許更新制の廃止決定、働き方改革の推進、コンピテンシー・ベースへの移行、等)は、教育・保育にかかわる業務環境をこれまで以上に不透明な状況にしている。そのような中、将来、教育・保育に携わろうとしている学生たちに対し、的確な指導を行い、たとえ困難な状況を迎えようとも、教育・保育に携わることへの希望を持ち、粘り強く取り組んでいくことができる姿勢、自律した教育的専門職を目指し自ら学び続けていこうとする態度、及び、そのために必要となる基礎的・基本的な資質・能力を育成していきたい。また、個々の学生の夢の実現に向け、採用試験対策にかかわる指導・支援も行い、将来の教育・保育者の育成に尽力していきたいと考える。</p>					
3 教育方法					

本学の目指す pisa 型学力の育成も視野に入れ、基礎的な知識・技能を修得した上で、その知識・技能を活用し課題解決を図っていくことで、自らの認識として定着していくことを目指し、指導過程をデザインしている。そのため授業においては、ペアやグループワークを数多く採り入れるとともに、最終的に学修したことを振り返り、自らの言葉でまとめるなどのレポート課題を課すことで真の学力として定着させることを目指している。さらに、提示した資料についてグループで協議させ、その状況から学生の理解度を把握し、その後の解説の程度を判断するなど、リーディングスキルの向上にも配慮し、授業を行っている。また、英語関係の科目では、個別の口頭課題を課すことで、個々の学生の状況を把握し、個別に必要な指導・支援を行い、最終的に課題を達成できたという学修に対する達成感を味わわせることで、今後も学んでいきたいという意欲につなげ、生涯を通して学んでいく自立した学習者の育成を目指している。

4 授業改善の活動

学生からのフィードバックには、授業評価アンケート、及び各学期の最終段階で行うレポート課題及び実技課題の結果を活用し、授業改善を行っている。特に後者については、その科目を通して学生に身に付けさせたい資質・能力がみえるため、それまでの授業での自らの指導、個々の学生への個別指導等について振り返り、迅速な改善を図り、その後の指導改善に生かしてきた。また、自らの専門的資質の向上を図るため、自らも博士後期課程で教育方法について学び、学会で発表活動を行うとともに、近隣で定期的に行われている研究団体の例会にも参加し、授業分析などの教育方法について研鑽を続けている。また、英語教育については、所属する学会に参加するとともに、教科書及び関係する書籍の執筆、及び英語科教員対象の講座の講話などを行うことで、自らの資質・能力の伸長を図っている。

5 学生の授業評価

2025 年度の評価は添付資料のとおりである（添付資料 2）。特にこれまでの教育活動の成果として評価が高かったのは、質問項目 2（授業の工夫）と 3（教師の話し方）である。それはそれぞれの学修集団の状況を踏まえ、明確な説明、適切な支援・助言などが具体的に数値となって表れた結果であると言える。そのため、質問項目 12（総合満足度）もこれまで以上に高い評価を得ることとなった。この結果を踏まえ、2026 年度の授業ではさらに学生の実態を踏まえた上で作業時間の時間を拡大し、さらにアクティブラーニングの質を向上させていくことを計画している。さらに AI を積極的に活用していき、学生個々の学びの質や効率を高めていく。このような授業にしていくことで主体的・対話的で深い学びを実現し、全体的な評価が高まっていくことを期待したい。

6 学生の学修成果

全体的な学びの過程である基礎的・基本的な知識技能の習得を行った上で、協働的な学びそして学びを振り返ってのレポート作成というサイクルを継続して行ってきたことにより、学生はこのスタイルに慣れ、授業後のレポートでは、本時で新たに学んだことを自らの言葉でまとめた上で、それに対する考えなどについての確に表現できるようになってきた。さらに将来、教育・保育の専門家として取り組んでいくための教育・保育観も着実に培ってきていることも感じられる（添付資料 3）。また科目「英語」では、これまでの英語学習観を転換し、積極的に活用していきながら正確性を付加してきたことで、英語運用能力も伸びてきている。そして科目「外国語（英語）教育法」では、教科の目標や指導上の留意点も踏まえ、最終的にほとんどの学生が指導案を作成できるようになっている（添付資料 4）。

7 授業科目に関連した教材開発

1 年生対象の英語に関する科目では、学生の状況を踏まえて、高等学校での学びの復習と大学での学びを効果的に結び付けられるよう、丁寧な解説ワークシートを作成し、授業で活用している。また、教職系の科目では、学生がより実践的な知識を学んだ上で他の学生たちと協働的・探究的な学びができるような、できるだけ具体的な事例を提示し、それに関する解説する資料・スライド資料などを準備している。

8 指導力向上のための取り組み

愛知学泉大学家政学部が主催する FD 研修会に参加し、教育改善の方策のヒントを得ている。学外での取り組みとしては、博士後期課程で教育方法学について学び、学会での発表等を行っている。また、愛知県内外の協働的な学びを推進している学校を訪問し授業づくりの様子を学んだり、「東海国語教育を学ぶ会」や「学びの共同体研究会」などの研究・研修会で指導方法、教師の職能成長などについて学んだりしている。今後は学びの共同体スーパーバイザーとして、さらに自らの指導力向上のための取り組みの幅を広げていきたいと考えている。

9 今後の目標

当面の目標としては、公立小学校教員採用試験の合格者をこれまで以上に輩出することが挙げられる。そのために、授業としては小学校の教職系科目における指導の充実を図るとともに、1・2年次からの指導も含め、ゼミ指導や個別の対応をきめ細かにいき、教員養成の充実を図ってきたい。また、受験対策同様、現場で早い段階から活躍できるように、授業や子ども、教材の見方、基本的な授業展開の仕方等について、基礎的な知識技能や認識育成に努めていく。英語に関する科目の指導に関しては、個々の学生の状況を踏まえ、基礎的・基本的な知識技能を身に付けた上で、それを活用して運用していくことができるように AI の積極的活用も含め授業及び予復習の充実を図っていく。

10 添付資料

添付資料 1 「シラバス」、添付資料 2 「授業評価アンケート結果」、添付資料 3 「学生レポート」、添付資料 4 「学生 が作成した外国語科授業デザイン」